

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494000068	事業の開始年月日	平成20年4月1日	
		指定年月日	平成20年4月1日	
法人名	特定非営利活動法人 くぬぎと榿			
事業所名	グループホーム柿の木			
所在地	(259-1141) 神奈川県伊勢原市上粕屋1040			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	18名	
自己評価作成日	平成24年1月12日	ユニット数	2ユニット	
		評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一人ひとりを大切に」「生き生きと生活できるようにする」を合言葉に、家庭的な雰囲気、いつでも相談できるやさしさ、気づかいのできる介護を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町12-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月6日	評価機関 評価決定日	平成24年5月8日

【事業所の概要】

この事業所は、小田急線伊勢原駅北口から日向薬師・七沢行バスで7分、川上バス停から徒歩10分の丹沢山系や大山に囲まれた静かな田園地帯に位置している。法人は特定非営利活動法人「くぬぎと榿」である。牧場の跡地である敷地内には樹齢300余年のくぬぎと榿、柿の木があり、緑豊かな生活を提供しており、事業所、法人の名称の由来となっている。建物は耐火鉄筋コンクリートの2階建てで、屋上があり全館バリアフリー構造になっている。

【自立にむけた支援の実践】

理念は開設時の職員が作成したものであり、「一人ひとりを大切に」「生き生きと生活できるようにする」を合言葉に、親身になってできること、できないことをモニタリングして自立支援につなげている。本人や家族だけでなく縁者や多方面の関係者から情報を得ている。お茶の時間、おやつ時間、夕食後の時間を利用して利用者同士が仲良く過ごせる場所づくりを職員が支援している。一人ひとりの個性を大切にしたいチームケアを実践している。医療機関、訪問看護との連携もあり安心した生活をおくれる体制になっている。

【地域との連携強化】

事業所主催の夏祭りには家族、近隣住民やフラダンス、太鼓のボランティアも参加している。近隣の幼稚園児と母親のグループが歌や演奏を披露している。地域の方からお花や野菜をいただくこともある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム柿の木
ユニット名	こすもす

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>利用者のできること、できないことをモニタリングしながら、自立支援につなげていきます。</p>	<p>理念は開設時の職員が作ったものであり、玄関、事務所に掲示されている。自立支援と地域密着が基になっており、利用者の意向に沿ってケアを日々実践している。</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>ボランティアセンターから情報を受け取り、依頼しています。</p>	<p>自治会にはまだ加入できていないが、近所の方からお花や野菜をいただくことがある。夏祭りには家族、近隣住民が参加している。フラダンス、太鼓のボランティアから協力を得て、幼稚園児と母親のグループの唄や演奏もある。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>傾聴ボランティアを受入れ、交流をはかっています。ご家族の相談には親身になって対応します。</p>			
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>契約する際は文書にて説明をし、理解・納得を得るようにしている。</p>	<p>運営推進会議は本年度管理者の変更もあり開催されていない。参加メンバーは市・地域包括支援センターの職員、自治会長、民生委員、家族及び利用者で、事業報告や意見、要望を受けている。</p>	<p>事業所の運営状況の報告の場として、さらに行政、地域との連携強化の面からも定期的な運営推進会議の開催を望みます。</p>	
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>話しやすい雰囲気作りを心がけ、意見・要望・問題点に速やかに対応できるようにしている。</p>	<p>市の担当窓口は介護高齢福祉課であり、介護保険、生活保護の手続き、事業所の現状報告などで市とは連携している。市主催の研修会や、グループホーム連絡会はない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をしないケアを目指し、担当者会議、スタッフミーティング等で話し合いを持っている。</p>	<p>マニュアルがあり、職員に周知している。本年度から玄関は自動ロックを手動に変えて開放している。利用者が外出したケースがあり、警察からの連絡で保護した。見守りと声かけを徹底している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>モニタリング、担当者会を通して介護の質を高めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日々の介護サービス計画書の確認について、本人を交えて担当者会議を定期的に行っている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約する際は文書にて説明をし、理解・納得を得るようにしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>話しやすい雰囲気作りを心がけ、意見・要望・問題点に速やかに対応できるようにしている。</p>	<p>利用者の意見や要望は日常のケアの中で確認している。家族からは、訪問時などに意見や要望を聞いている。常に話しやすい雰囲気作りを心掛けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議・連絡ノート等にて職員の意見や提案を聞き業務やケアに反映させている。	毎日の朝礼時の申し送りや、月一回の全職員参加のスタッフ会議で意見・要望を吸い上げている。管理者に言いやすい雰囲気があり、日常の業務の中で職員は自主的に活動している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会や研修に職員を参加させるよう心がけている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ヒヤリハット、事故から再発防止策をスタッフミーティングで話し合ったり、担当者会議出席を通して介護の方法、スタッフの統一した見解、技術を伝達している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や勉強会への参加の機会を作ってはいるがなかなか参加できていない。		
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人をモニタリングしながら言葉として表れないニーズを読み取っていき、安心できる場、関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントして入居なさっても補足しなければならない事、本人の気持ちを伝えながら、信頼関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設サービス計画作成の原案を提示し、どこに目標を設定したらよいか、サービスの内容を含めて話し合っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、家族を含めた担当者会議を開き、どのように生活したいかを聞き取り、できること、できないこと等をモニタリングして共有する。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加への誘い、通院付添等を通して、生活の様子の把握伝達をしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に限らず、本人の生活の中で大切にしている信条や、付き合いを大切に考え支援していきます。	利用者の友人が訪ねてくることもあり、居室でお茶の接待もしている。教会のミサへ職員が付き添うこともある。家族と一緒に墓参りや法事に行くこともある。電話の取り次ぎもしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶の時間、おやつの時間、夕食後の時間等を利用して、仲良く過ごせる場づくりに介護スタッフも中に入り、気遣っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの行事の案内を送付したり、転院された方のお見舞いに行ったりしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人に理解できるように、モニタリングをしています。ご理解できない方は、スタッフの担当者会やご家族の訪問時にお聞きしている。	入居時のアセスメントで利用者、家族だけでなく縁者や多方面の関係者から情報を得ている。困難な場合は日常の表情やしぐさから把握するようにしている。職員は常に聞きやすい雰囲気作りに努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別に生活リズムは少しずつ違いがあり、その人らしい生活はどのようなものを把握しながら、再アセスメントモニタリングを実施している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、支援サービス内容がてきせつかどうか、モニタリング再アセスメントしながら、ニーズの読み取りをスタッフ会議等で把握していこうとしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>月末に本人と面接しモニタリングを実施。自分のことを言えない方は担当者会議の議題にあげ本人の代弁者として声掛けのしかた、介護方法t負うの目直しを考えて行くようにしている。</p>	<p>まずはアセスメントを作成し、スタッフ会議でモニタリングや医師の受診記録を基に話し合い、個々の利用者にあった介護計画を作成し、本人や家族の同意を得ている。介護計画は、3カ月ごとに見直している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別な申し送り書、日誌を通してスタッフ全員が介護方法、情報を共有できるようにしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>事業所の関連企業として介護タクシーの利用がしやすいので、緊急時の対応、柔軟な支援が出来ている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティア、地域の人々に支え合ってもらっている。ネットワークづくり、行事参加をお願いしている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>24時間医療連携体制を実施している。また、かかりつけ医の訪問診療、訪問看護をお願いしている。専門医への受診には、本人、家族、希望があればスタッフの付き添いも実施している。</p>	<p>利用者の意向を基に医療機関を選択しており、入居前からのかかりつけ医と事業所の協力医の両方の診察を受けている方もいる。協力医の往診は月2回、歯科医の訪問は週1回である。また、協力医の看護師と24時間体制の訪問看護の看護師が週1回訪問している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎週金曜日訪問看護時、日常生活の中で変わったことについて報告、相談をしている。毎週水曜日のかかりつけ医の訪問看護、医師には、緊急な病変について利用者の相談をしている。</p>			
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院している間も病状把握に努め、病院との情報交換、担当者会議の出席に努め退院しても日常生活を安心して生活できるようにする。</p>			
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期の在り方について、本人・ご家族の意向を踏まえ、事業所・主治医とその時に合わせた話し合いをしていく。</p>	<p>入居時に、重度化した場合の対応や終末期のあり方について本人や家族に説明し、意向を確認している。本年度、利用者、家族から強い希望があり、医師と看護師の指導のもと初めて看取りを実施した。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>今年度は訓練はまだ行っていない。</p>			
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年度は訓練はまだ行っていない。</p>	<p>昨年3月に、利用者、職員参加の避難訓練を実施したが、夜間を想定した訓練や年2回の訓練は実施していない。地域との連携による防災訓練も実施していない。飲料水や食料を備蓄している。</p>	<p>年2回の消防署立ち合いの避難訓練の実施、地域との連携による防災訓練の実施を期待します。地域では唯一の耐火鉄筋コンクリート造りの建物なので、地域の避難場所の拠点となることを期待します。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性を大切に して、チームケアで対応して います。	管理者は日々のケアにおいて言葉かけ や態度について十分配慮するように職員 に注意している。職員相互においても注 意し合っている。個人情報に関する書類 は事務所の書庫に入れ管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決 定できるように働きかけている	自立支援が出来るように日ご ろからコミュニケーションを とり、自己決定が出来るよ うに促しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひ とりのペースを大切に、その日をどのように過ごし たいか、希望にそって支援している	今日一日のスケジュールを知ら せ、一人一人のペースを大 切にしながらか過ごせるよう声 かけしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支 援している	時には服装へ関心を持ってもら うために、話題を提供して います。関心を示す時は本人 の希望を取り入れます。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや 力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食 事、片付けをしている	屋上で食事やお茶の時間を過 ごすことが出来るようにセッ ティングしたり、食事の準 備、片付けを一緒にします。	食材と献立は業者に委託し配達してもら い、調理は職員と利用者で行ってい る。誕生会、正月は特別に食材を注文し た。また、クリスマスにはカップちらし やカップケーキを、十五夜には太巻きず しや団子を作って楽しめる場を作った。 きざみやとろみ食にも対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、水分の量など記録に記入しています。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食事の後、声かけするだけでなく、見守り口腔の清潔を保てるように出来ないところは介助します。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄の時間、量を記入し、本人の排泄リズム、サイクルをつかみ、事前に察知するよう努めています。</p>	<p>排泄パターンを把握して見守り、声かけ、誘導して自立支援をしている。全員リハビリパンツを使用している。自立者は1名である。失禁時にはさりげなくトイレに誘導し優しく対応している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便コントロールを担当者でも話合い薬の使用をしながら対応しています。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>月、水、金、入浴によって清潔が保たれると同時に楽しめるようにお一人ずつ湯を取り替え一部介助、見守りしながら入浴出来るようにしています。</p>	<p>利用者の希望に応じて対応している。原則として週3回、月、水、金の午前中に入浴している。入浴をしたがらない方にはタイミングや声かけを対応している。菖蒲湯やゆず湯などの工夫もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時までには入眠できるように、一人一人関わりながら、安眠できるように努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食後、食間等も気遣いながら、間違いのないようダブルチェックして服用していただいている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとや気分転換に車を利用して近くの公園に行ったりしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にそって戸外に出かけるようにスタッフ付添をしながら支援している。	毎日天気の良い日には利用者の体調に合わせて散歩に行っている。車椅子の方も職員が対応している。お花見や初詣、太田道灌祭りにも行っている。屋上やウッドデッキで外気浴を楽しんでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、本人に付添って買い物等をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はもちろんのこと、手紙のやり取りができるように切手を買ったり、ポストへ行ったり支援しています。			
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間に対して環境づくりは、スタッフ、利用者が一緒になって掃除等に取り組んでいる。	居間は広く清潔に保たれている。観葉植物やパッチワークなどの作品が飾られており季節感が感じられるようになっている。毎日清掃しており、加湿器も置かれて快適な環境を作っている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室であるので、一人の居場所は確保できるが、他利用者がドアを開けたりするので、その方の行動について注意を払っている。ホームの共同生活を気持ちのよい居場所になれるように配慮している。			
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご自宅で使用されていた馴染みの家具や寝具を用意していただき、違和感なく毎日がおくれるよう、ご家族に様に協力を得て支援しています。	居室はエアコン、防災カーテン、押入れ、照明が備え付けられており、ベットはリースになっている。畳の居室も5部屋用意されている。テレビ、冷蔵庫、位牌などの持ち込みもある。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、食堂には手すりが付けてある。居室の入口には名前を表示して、自立した生活が送れるように、他の入居者と区別がつくように表示方法にも工夫して支援しています。			

事業所名	グループホーム柿の木
ユニット名	さくら

アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○ 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○ 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○ 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	○ 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	○ 3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)	○ 1, ほぼ全ての職員が
	○ 2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が
	○ 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の個性と人格を尊重し、個々の能力が発揮できるよう取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りにフラダンス・太鼓・大学生ボランティア、クリスマス会には教会の方がこられている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談等受けた時は、支援策などをお話したいと思う。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	契約する際は文書にて説明をし、理解・納得を得るようにしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	話しやすい雰囲気作りを心がけ、意見・要望・問題点に速やかに対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中玄関の施錠はしていない。階段に付けてあった柵は外し、見守りにて対応している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員同士がお互いに気をつけ、虐待に当たる行為がないよう注意を払っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要に応じて活用できるよう支援していく</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約する際は文書にて説明をし、理解・納得を得るようにしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>話しやすい雰囲気作りを心がけ、意見・要望・問題点に速やかに対応できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議・連絡ノート等にて職員の意見や提案を聞き業務やケアに反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会や研修に職員を参加させるよう心がけている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧し、受講する機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や勉強会への参加の機会を作ってはいるがなかなか参加できていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思いを受け止め、安心して生活していただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどこまで対応できるかを話し合い、ご家族との信頼関係を築いている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況を把握・確認し可能な限り柔軟な対応をしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の生活経験・残存能力を活かしつつ、ご本人の気持ちに耳を傾けながら日常生活を共に過ごしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ホームでの様子・状況を伝えるとともに、職員が接している感じることをつ伝え、ご家族の思いも伺っている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>なじみの人たちが気軽に訪問できるような雰囲気作りを心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で関わりを多く持てる環境を用意し、利用者同士の関係が円滑にいくよう働きかけている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの行事の案内を送付したり、転院された方のお見舞いに行ったりしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族からだけでなく、縁者や多方面の関係者からの情報を得るようにし、本人の意思に沿うようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や今まで利用していたケアマネージャーからの情報を伝えて貰えるような関係づくりに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で情報を共有することで、利用者の生活のリズムを早期に把握し、変化を見逃さないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月会議を開き、職員の意見を聞き作成している。本人や家族には、日頃の関わりの中や訪問時に思いやいけんをきき、介護計画に反映させている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>一人一人の生活記録を用意して、日常生活の様子、食事摂取・水分摂取・排泄状況・身体状況などを記録し、職員間で情報を共有している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>できる限り柔軟な対応に心がけている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に参加したり、散歩を通じて地域の方との交流を図っている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時、本人・家族の希望により事業所の協力医と訪問診療の契約を交わし、定期的往診を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医院の看護師による訪問看護のほか、24時間対応の訪問看護との契約をしている。利用者の変化・状況を伝え適切な対応をしていただけるようにしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>早期に退院できるよう医療機関と相談し、隊員の許可が出たら直ちに受け入れられるようにしている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期の在り方について、本人・ご家族の意向を踏まえ、事業所・主治医とその時に合わせた話し合いをしていく。今年度ホームでの看取りを行った。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>今年度は訓練はまだ行っていない。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>今年度は訓練はまだ行っていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や打合せなどで、言葉かけや対応について確認し、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で自分で判断し、自己決定できるよう働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重し、その人の希望や意思に沿うような支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に、衣服の汚れなどの時は、プライドを傷つけないようさりげなく対応するよう努めている。美容は、訪問美容を利用している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲で準備・片づけを一緒に行っている。職員も一緒に食事をとり、会話などにより食事が楽しみになるよう働きかけている。食べやすいよう盛り付けや、形態に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量や水分量の記録をとり、体調や状況に応じた形態で提供している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>週1回訪問歯科医による治療・口腔ケアを行っている。毎食後、一人一人の状況に応じた口腔ケアを行っている。義歯の方は、就寝時に洗浄・消毒を行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>日中はリハビリパンツを使用し、トイレ誘導をしている。排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう支援している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便の記録をとり、便秘時には主治医の指示により服薬をしている。水分摂取量や食事にも工夫をしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週3回の入浴日を決めているが、状態や希望に沿い臨機応変に対応している。浴槽の湯は、一人一人取替え、新しい湯で入浴している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、その人に合った支援をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルしてある。変化・変更があった時は、申し送りノートで周知するよう心掛けている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	雑誌を読んだり、テレビを見たり、洗濯物たたみや食事の準備・片づけなど、楽しみや役割を見出せるようにしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩だけでなく、屋上に行ったり自由にウッドデッキに出たりしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安な方は、家族と相談の上所持されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、ホームの電話を使い、電話をしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節や湿度調節はこまめに行っている。壁面には利用者の作品や季節に合わせて飾付けをしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやウッドデッキには、ソファや椅子を置き、気に入った場所でゆっくり過ごせるようにしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には慣れ親しんだものを持ってきていただき、居心地のよい空間を作っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の入口に氏名の表示をしている。廊下やといれ・洗面台など共有部分には手すりを付けてある。		